

2025年度 入学試験問題

二〇二五年度 学校推薦型選抜専願A入学試験問題（十一月十六日実施）

国語（六〇分）

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人間が生み出したかと思まがうような文章や画像、音声などを作り出す人工知能「生成AI」が急速に、働く現場に広がっている。ボストンコンサルティンググループが世界15の国と地域で1万3千人以上を対象に職場でのAI活用を調査したところ、業務外も含み「生成AIツールを日常的に使用している」と^①カイトウした従業員の割合は52%と、昨年の20%から急増。管理職では64%、経営層は88%に達し、働き手全体に浸透していることが分かる。

科学研究の場でもAIの活用は進む。学術論文の翻訳や^②コウセイ、引用文献の整理やデータの分析など、研究活動を支援するツールが登場。効率化による成果^③ソウシュツの加速が歓迎される一方、研究の^④コウセイさをどう担保するのは議論されているところだ。今年2月、AIが生成した図がでたらめだったとして、学術誌に掲載された中国の研究者らの論文が撤回され、物議を^⑤醸した。

専門家が確認しながらなぜ掲載されてしまったのか不思議な事例だが、もっと複雑な課題もある。生成AIを使うことにより、意図せずに他者の研究やコンテンツを盗用してしまったり、学習データの影響でバイアス（^⑥ヘンコウ）が生じてしまったりするかもしれない。論文執筆のかなりの部分をAIに任せただけの場合、それは誰の著作物となるのか、という疑問もある。こうした点は、「書くこと」を^⑦ナリワイにするわれわれ記者にとっても、ひとつことではない。

メディア業界では、記事本文や要約の生成などでAI活用が模索されている。個人的には取材時の録音の文字起こしと翻訳くらいでしか活用できていない。試しに取材内容の要約を生成してみたことがあるが、記事執筆のたたき台にもならなかった。取材相手が話した要点はまとまっても、それと記事化すべきことが、必ずしも一致しないからではないかと思う。

社会背景や読者の関心を^⑧カンアンし、何に着目して記事をまとめるか。人間の記者の^⑨創意工夫に、今のところは軍配が上がりそうだ。ただ、AIの技術発展は目覚ましく、負ける日がすぐ来るかもしれない。

AIに手間を肩代わりさせるだけでなく、AIと融合するからこそ可能な、上質な報道を実現するにはどうすればよいか。「人間記者」の真の価値が試されている。

（産経新聞「【記者発】人間の記者はAIと真の価値を創造できるか」

〈二〇二四年七月二八日〉より）

受験番号

問一 傍線部イ「カイトウ」、ロ「ソウシュツ」、ニ「ヘンコウ」、ホ「ナリワイ」、ヘ「カンアン」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部ア「コウセイ」およびB「コウセイ」は同音異義語である。それぞれ適した漢字で書きなさい。

問三 傍線部ハ「醸した」の読みを送り仮名も含めて平仮名で書きなさい。

問四 次の①～④の意味に合う最も適当な語句を文中からそれぞれ二字で抜き出して答えなさい。

- ① しみとおること。
- ② 物事を学問的に深く考え、調べ、明らかにすること。
- ③ 全体を小分けにした一つ一つ。
- ④ 一つにとけあうこと。

問五 傍線部①について、著者がそう考える理由について簡潔にまとめなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

数年前、毎週、歯医者さんに通っていた。歯科医院が、眼科や耳鼻咽喉科とともに、一般の病院と異なるのは、患者に年齢の偏りがないということである。お年寄りもいれば幼児もいる。ふだん間近に見ることのないそういうひとたちのふるまいやたずまいを、見ることもなく観察するのは、治療前のちよつと心細い時間のなかでの、ささやかな愉しみでもある。

わたしが^③モクゲキしたほほえましい光景のひとつを紹介しよう。歯医者さんには、^⑥シユウカンシのほかに、子ども用に絵本やおもちゃが備えてある。それをめざとく見つけたその幼児は、お母さんに「あれ、読んで」とおねだりしていた。お母さんはさつそく絵本を手にとり、子どもを^⑦ヒザに乗せて読みはじめたのだが、子どもははじめこそ絵本をのぞいていたものの、やがて気はよそに行きだした。となりの子どものおもちゃが気になってしかたがないのである。眼は必死でそれを追う。

(1) お母さんは本を読み終え、子どもの気がよそに行っているのに気がついて、本を閉じる。すると、^④カンハツいれず、子どもは「もう一回」とおねだりする。「ちつとも聞いてないじゃないの」と、お母さんはためいきをつきながら、また最初から読みはじめる。子どもはこんどもまた眼光鋭く、となりの子の遊びを注視している。それに気づいてお母さんが読むのをやめると、子どもは「もつと」とせがむ。

奇妙なことである。^①聞く気がないのに、「読んで」とせがむ。このとき、子どもはいったい何を求めているのだろう。

たぶん、話の中身が重要なのではない。話の中身上下に、母親の声がじぶんに向けられているということが大事なのではないか。つまりは、言葉の意味より言葉がじぶんに語りかけられているというシチュエーションのほうが、テキスト（物語の意味）よりテクスチュア（母親の声の肌理）のほうが。子どもはおそらく、じぶんが、いわば独占的に、母親の意識の宛先になっているという状況に浸っていたいのである。

最近、朗読の練習に通う中高年の方たちが増えているそうだ。うまくなったら、ボランティアで保育園や幼稚園に出かけ、子どもたちに語り聞かせようというわけだ。気持ちには分らないでもないが、ひっかかる。

じぶんが子どもだったら、と考えてみる。ひとりで寝つくとき、枕元で母親が本を読んでもれるとする。そのとき、淀みない朗読に(2)心はほどかれるだろうか。字を読みまちがえてもいい。劇的な^⑤ヨクヨウはなくてもいい。途中で居眠りして中断してもいい。それよりも、読みなれない本を、無理して、眠たいのを^⑧ガマンして、じぶんのために読んでくれている、そういう場面にじぶんがいられることが心底うれしいのではないか。声がまぎれもなくじ

ぶんに向けられているということが。

なれた朗読から響いてくるのは、不特定のひとに向けられた声だ。めりはりのある、⁽⁸⁾カンキウのある、澄んだ声。それはわたしに向けられているというよりも、だれが聞いても耳あたりのよい声だ。だからふつう、それはアナウンサーや俳優・声優など、不特定多数のひとに語りかけることを仕事にしているひとたちが学ぶ。^{II} 子どもが朗読に求めるのはそういう声ではない。じぶんがだれかにたいせつにされていると感じられること、それをこそ子どもは望んでいる。

子どもは親の声の質に^(h)敏感である。学校に行くようになって、親の声が、社会のいちばん前の声が変わってくる。「ちゃんと宿題したら、遊園地に連れて行ってあげますからね」「もし〜できたら」という、ひとに対してまず資格を問う社会の最前列の声になってくる。親の顔のうしろ、声の背後に、社会が透けて見えてくる。いうまでもなく、そのような顔、そのような声が向けられるのは、じぶんの子どもというより、社会のなかのじぶんの子どもである。「あそこのお家のくちゃんはちゃんとやっているよ」と、子どももまた社会のなかに置かれる。話すほうも聴くほうも、社会の〈標準〉という枠組みのなかで語りだされる。

子どもが、いや大人でも、ほんとうに浴びたい声はそういうものではない。背後に社会が透けて見えない、だれかの存在そのものであるような声、もっぱらわたしのみを宛先としている声である。^{III} そういう声のやりとりのなかで、ひとはまぎれもない〈わたし〉になる。

〈わたし〉を気づかう声、〈わたし〉に思いをはせるまなざし。それにふれることで、わたしは〈わたし〉でいられる。気づかいあうこと、それは関心をもちあうことである。⁽³⁾

関心 (interest) の語源は、interesse (インテル・エッセ)、「ともにある」「相互的に存在する」というラテン語のフレーズである。

(鷲田清一『大事なものは見えにくい』より)

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「モクゲキ」、②「シウカンシ」、③「ヒザ」、④「カンハツ」、⑤「ヨクヨウ」、
⑥「ガマン」、⑦「カンキユウ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 空欄 ① ② ③ に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ
選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一回しか使えません。
ア ちなみに イ やがて ウ なるほど エ はたして オ きつと

問三 傍線部①「敏感」の対義語を漢字で書きなさい。

問四 傍線部Ⅰ「聞く気がないのに、『読んで』とせがむ」とあるが、そのせがむ理由について、
筆者はどのように考えているのか、文中の語句を用いて簡潔にまとめなさい。

問五 傍線部Ⅱ「子どもが朗読に求めるのはそういう声ではない」とあるが、「そういう声」
とはどのような声か、文中の語句を用いて答えなさい。

問六 傍線部Ⅲについて、筆者は、どのような声のやりとりによって、人がまぎれもない「わ
たし」になると考えているか、文中の「社会」、「枠組み」、「わたし」の語句を用いて述
べなさい。

解答用紙（二枚のうち二）

問一	
ホ	イ
ヘ	ロ
	ニ

問二
A
B

問三
ハ

問四			
④	③	②	①

問五

受験番号				

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
㉔	㉑
㉕	㉒
㉖	㉓
	㉔

問二
（1）
（2）
（3）

問三
㉗

問四

問五

問六

受験番号			

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

（1）な美からの脱却

「¹高速道路の美」には、鉄やコンクリートでつくられた建造物の美と、それが自然環境と一体となって形成する風景の美という二つの側面があるかと思う。いずれも機能性や合理性に立脚した、いわば即物的なエンジニアリングの美が基本となるが、二つ目の風景美については、ナチス時代のアウトバーンの例に見るように、国土・文明の理想像の追求という思想的な深みを伴う場合もある。

日本にとって高速道路は外来の文明^a。ソウチであり、その実現にあたっては、海外の先進事例から多くを学んだ。そのため美に関する問題を含め、世界の状況を知らずして日本の高速道路を理解することは難しい。そこで本論に入る前に、世界の高速道路の美、またその^bキチヨウとなるエンジニアリングの美について、少し考えてみたいと思う。

産業革命以降、建設技術の目覚ましい⁷発展を背景として、インフラ施設の規模や形は大きく変化した。それは、建設に用いる材料が、石、^c煉瓦、木、土といった伝統素材から、鉄やコンクリート、つまり工業生産が可能で、かつ、力学理論と一体で進化することで構造的可能性を広げる、という材料工学の発展によるところが大きい。

こうして実現したシンプルなコンクリートのアーチや巨大な鉄の骨格は、長年伝統素材を^d駆使して装飾豊かな建造物をつくり出してきた芸術家や建築家たちにとって、美の規範を^eイッダツする存在であった。例えば、フランスを代表する芸術家や建築家たちは、エッフェル塔がパリの美を破壊する忌まわしい鉄の柱であると糾弾している。一八八七年のことである。しかし、これに対してエッフェルは、力学の条件に合致することが形の調和の隠れた条件であり、それを実現することでこの塔には固有の美が備わった、と反論している。これは伝統的な芸術表現とは異なる、構造美という新たな美の宣言であった。ただ結局エッフェル塔は、構造に必要な装飾的なアーチを付加して建設され、その後もフランスのインフラ事業においては、伝統と近代の調和を意図した^f折衷的な美が^gモサクされていく。

しかし二〇世紀になると、エンジニアの構造物に^hシヨクハツされて、新たな芸術を目指す

芸術家が次第に^①台頭する。例えば、建築家ル・コルビュジエは、初期の声明書『建築にむかって』（一九二三年）において、「エンジニアの美と建築」の問題を真つ先に取り上げている。「エンジニアは健康的で力強く、^①活動的で、有益で、道義にかなない、^②陽気である。一方建築家は不満げで、仕事がなく、大言壮語し、気難しい。……エンジニアは自然の理法に適った計算を駆使し、その作品に調和が感じられる。それこそがエンジニアの美である」。ル・コルビュジエはエンジニアと建築家を対比的にとらえ、建築の古典的な美から脱却する一つの拠り所として、^{II}エンジニアリングの美を称揚したのである。

（北河大次郎「美しい日本の高速道路（二） エンジニアリングの美」

『究』二〇一九年十二月号より）

問一 傍線部①「ソウチ」、②「キチヨウ」、③「イツダツ」、④「モサク」、⑤「シヨクハツ」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部⑥「煉瓦」、⑦「駆使」、⑧「折衷」、⑨「台頭」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

問三 傍線部⑩「発展」、⑪「活動」、⑫「陽気」の対義語をそれぞれ漢字で書きなさい。

問四 この文章に見出しを付ける場合、空欄 1 に入る最も適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 装飾的 イ 機能的 ウ 構造的 エ 因襲的 オ 対比的

問五 傍線部Ⅰ「高速道路の美」について、筆者は二種類の美があると言っている。文中の語句を用いて、それぞれの美について三字と二字で抜き出しなさい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

問六 傍線部Ⅱ「エンジニアリングの美を称揚した」とあるが、ル・コルビュジエはどのよう
にエンジニアリングの美を捉えているのか。本文から三十六字で抜き出しなさい（句読
点、記号なども文字数に含むものとする）。

著作権の都合で
掲載しません。

解答用紙
(二枚のうち一)

問 →	
h	a
	b
	e
	g

問 →	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

問三	
ア	
イ	
ウ	

問四	
----	--

問五	
2	1
の美	
	の美

[illegible]

--	--

--	--

--	--

Trial	Control	MCI	AD
1	85	75	65
2	88	78	68
3	90	80	70
4	92	82	72
5	95	85	75

The diagram shows a rectangular domain with a central square hole. The domain is divided into four quadrants by a vertical line at $x=0$ and a horizontal line at $y=0$. The central square hole is centered at the origin with side length $2a$. The outer boundary is a rectangle with width $2b$ and height $2c$. The inner boundary of the hole is a square with side length $2a$. The domain is labeled with x and y axes, and the boundaries are labeled with a , b , and c .

7

受験番号

受験番号

二〇二五年度 一般選抜A入学試験問題(二月一日実施)

国語(六〇分)

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

このところ、^①コウエンの多くで私が話しているのは、「人類進化史から見た現代社会」というテーマである。

現代の生活があるのは、人々が過去に、その時々で生活で問題だと思ったことに技術で対処し、善かれと思つて改善してきたことの積み重ねの結果である。もつと楽に速く移動し、もつと大量の物資を動かしたいという欲求のもと、自動車や航空機などが発達した。遠くの人ともコミュニケーションを取りたいという欲求のもと、電話や無線機が普及した。いろいろな場所で起きたニュースをもつと速く多くの人々に届けたい、それを知りたいという欲求のもと、ラジオやテレビが発明され、普及した。

こんなことはみな、多くの人々の間に「あつたらいいな」と思う欲望があり、それらをかえる技術開発があり、それを普及させればもうかるという動機付けがあつて成り立つてきた。^②そんなことが普及した社会はどんな社会になるのか、それによつて失われるものがあるだろうかなど、誰も考えていたわけではない。

^③、今や各種のソーシャルメディアや生成AI(人工知能)などの情報技術が出てきて、いったいこれからどうなるのかが問題視されている。では、「私たち人間」とはどんな存在なのだろう? いろいろな技術はみな、私たち人間が、自分たちの欲望に基づいて発展させてきたはずなのだが、もともと「私たち」とはいったいどんな存在なのだろう?

ここ数百年、数十年の変化は大きい、^④「私たち」の本来の姿というのはあるのだろうか? 実はある。^⑤それを明らかにしてくれるのが人類学の知識である。

私たち人類はおよそ600万年前、アフリカで他の類人猿の仲間と分かれ、^⑥ジヨウシユウ的に直立二足歩行する種類となった。そしておよそ250万年前、森林を離れサバンナをてくてく歩いて暮らす、ホモ属という種類になった。ホモ属のいくつかの集団は、アフリカを出てユーラシア大陸に拡散した。その子孫の一部がジャワ原人や北京原人である。ヨーロッパから中東に進出した集団の一部は、ネアンデルタール人となった。

^⑦、これらのホモ属はみな、理由はよくはわからないが、数万年前までにすべて絶滅してしまった。そしておよそ30万年前、アフリカに残っていた集団から新たに、私たち自身

受験番号

であるホモ・サピエンスが進化した。そして、およそ7万年前から再びアフリカを出て全世界に拡散して現在に至る。今、全世界に80億人近く存在する私たちはすべて、7万年前ごろにアフリカを出た集団の子孫だ。

その「私たち」の祖先は、およそ1万年前まで、全員が狩猟採集で暮らしていた。それは^①ケモノを狩猟し、食べられる植物を採集して暮らす生活である。定住はしない。食料源が少なくなれば移動する。他者と一緒にいなければ生きていけないので集団を作るが、どんな他者と一緒にいるかは、そのメリット、デメリットによって選ぶことができる。

学校も警察も病院もないので、全ての困難には個人がなんとか対処する能力を持っていない。②いわずに「専門家」というものはいない。誰もがなんでもできるマルチ人間なのだ。貨幣はないので一人できないことはお互い様で助け合う。こんな生活がおよそ599万年続いた。

およそ1万年前、メソポタミアの一部で農耕と^③ボクチクが始まった。それは、食料の分布に応じて放浪するのではなく、1カ所に定住して食料を自分たちで生産する生活だ。そして19世紀半ばの産業革命により、私たちは、自前のエネルギー源を手に入れた。以後の技術の進歩により、私たちの生活は激変した。大事なものは、人類進化史の99%もが狩猟採集生活であったことだ。これこそが、私たちのからだと脳の基本作動が進化した舞台なのである。

1カ所にずっと住むことも、時計とカレンダーに支配されて動くのも、一定年齢の子どもが学校という場所に集められるのも、人類史で言えばごく最近のことに過ぎない。みんなが何かの「専門」に特化し、自分ができないすべてのサービスを貨幣で買うのも、その貨幣を稼ぐために働くのも、ごく最近のこと。文明生活は便利だが最適になるように設計したわけではない。さまざまな「便利」のつぎはぎなので、ほころびは至るところにある。それらは直していけばいいのだ。

（毎日新聞「時代の風」「私たち」本来の姿とは 文明は「便利」のつぎはぎ」

〈二〇二四年八月四日〉より）

問一 ①「コウエン」、②「ジョウシュウ」、③「ケモノ」、④「ボクチク」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 傍線部⑤の「そんなこと」とはどんなことか。「欲望」の語句を用いて簡潔にまとめなさい。

問三 空欄⑥および⑦に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ⑥ ア あるいは イ および ウ さて エ さもないと オ だとすれば
⑦ ア 逆に イ このように ウ しかし エ そのため オ または

問四 傍線部⑧の「それ」とは何を指すのか。文中より十字で抜き出しなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問五 傍線部⑨と同じ品詞が使われていない文章を次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア あらゆる手段を講じる
イ 大きな時計台が見える
ウ きれいな景色だ
エ この本は貴重だ
オ とんだ災難だった

問六 筆者が「私たち」と「私たちの祖先」との違いを対比的に示している最も適当な語句を文中からそれぞれ三字と五字で抜き出しなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問七 問題文は大きく二つの意味段落に分けることができる。二つ目の意味段落の始まりを文中から三字で抜き出しなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

最近のスマホユーザーは「^aケンサク」もやらなくなっているという話をききました。パソコンではなくスマホ^①。ゼンセイの時代になってからは、他者とのメッセージのやりとりばかりになって、物事を「知りたい」という意欲さえなくしているというのです。

〔1〕人々は、SNSの罫から抜けだせないのでしょうか。それは社会そのものが、SNS化しつつあるからではないかと私は思います。

これを理解するには皆（集団）と私（個人）という二分法を使って考えていくと^①簡単です。SNSは「皆」の側に属していて、人とのつながりを基本としています。それに対して考える、あるいは本を読む、書くという行為は「私」に属しています。もしもネット上のつながりばかりに興味がいき、^②自力で考えることや、読み書きがおろそかになっているとすると、それは思考の^③ジクアシが「私」ではなく「皆」にあるということ、これすなわちSNSの人間になっているということです。

I 紙に記された書き言葉は「私」に属していますが、ネット上を行き交う言葉は「皆」に属しているのです。

読むという行為は文を通して考え、自分と向き合うということですし、書くということはまぎれもなく自己との対話にはかなりません。

一方、ネットでメッセージを発信するのは何よりも誰かとつながるということを目的とします。「つながり」「絆」を強調する最近の社会的風潮は、SNS的な価値観のあらわれでもあります。

「私」の側にある言葉は、ときに自分の奥深くに分け入って^④クトウしたり、また^③真理を解き明かそうと、時間をかけて言葉を費やしながら努力しますが、「皆」の側にあるネット上の言葉は、他人とつながるための道具として使用される。道具だから、その言葉自体が重要なのではなく、相手を瞬間的に引きつけるロープとして必要なものであって、用がすめばすぐにいらなくなるのです。

また従来の書き言葉は、本のようにいったん記されると長い間そこにとどまりメッセージを発信しつづけます。しかし、ネット言葉は「流れ」のなかにあります。^{II}書き言葉がストック、ネット言葉がフロー。対比的に整理するようになります。書き言葉が「私」の中に掘られた井戸に溜まっていくとすれば、ネット言葉は「皆」の間を川のように流れていく。SNSで発信した言葉は、三日もすればすっかり忘れ去られてしまいます。^{〔2〕}忘れられるということとを前提に発信されているといいかもしれません。

現代社会の言葉はSNSなどに流れるネット言葉の影響によって透明のラップのように薄く

なり、しだいに意味を失いつつあるように思えます。紙の上の活字がデジタル文字によって^e イッソウされつつあるようで、私は不安になります。

というのも、SNSが「個」の発信ではなく、結果として「集団」への^f ジュウゾクを促進する装置のように見えるからです。「私」を伝えているように見えながら、実は「皆」に溶けこむために発信されている言葉、それによって組み立てられるのが、スマホ的思考です。

これまでの社会は、自立した個人の成長や成熟を「読むこと」「書くこと」「生の対話」によって実現しようとしてきました。⁽³⁾ 現代のスマホ中心の情報社会は、個人の自立的な思考よりも、集団への参加とつながりを第一義的に考えるように、人々の内面を知らないうちに変化させているのではないでしょうか。

時に「私」は「皆」と対立することもあるはずですし、社会はそれを許容するものでなければなりませんはずです。⁽⁴⁾ SNSなどのネット社会が、集団のなかで個人が自立的に考え、自己形成を行うことをはばむものとして存在しているのなら、私たちはそれに対して、何らかのかたちで「ノー」を突きつける必要があると思います。

(藤原 智美『スマホ断食 コロナ禍のネットの功罪』より)

問一 傍線部①「ケンサク」、②「ゼンセイ」、③「ジクアシ」、④「クトウ」、⑤「イッソウ」、

⑥「ジュウゾク」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 空欄(1)～(4)に入る最も適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------|-------|--------|
| (1) | ア たぶん | イ なぜ | ウ やつと | エ まず | オ きつと |
| (2) | ア もしも | イ まだ | ウ たとえ | エ むしろ | オ はたして |
| (3) | ア しかし | イ なぜなら | ウ すると | エ および | オ だから |
| (4) | ア かならず | イ いつか | ウ もしも | エ きつと | オ たとえ |

問三 傍線部①「簡単」、②「自力」の対義語をそれぞれ漢字で書きなさい。

問四 次のア、イの意味に合う傍線部③「真理」の同音異義語を、それぞれ漢字で書きなさい。

ア 心の働きやそのさま

イ 事実を詳しく調べてはつきりさせること

問五 傍線部Ⅰについて、筆者がどのように考える理由について、文中の言葉を使って簡潔に答えなさい。

問六 傍線部Ⅱについて、筆者は両者をどのように例えて説明しているか。それを表す一文の最初の四文字を、文中から抜き出して答えなさい（句読点、記号も字数に含むものとします）。

問七 筆者が述べているSNSなどのスマホ中心の情報社会の問題点について、文中の「個人」、「集団」、「自立的」、「つながり」の語句をすべて用いて述べなさい。

二〇二五年度 一般選抜A入学試験問題（二月一日実施）

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一		問二				問三	問四	問五				問六	問七
e	a	(1)		(2)		イ	ア						
f	b	(3)		(4)									
	c												
	d												

--

--

--

--

--

--

--

--

受験番号				

国語（六〇分）

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ゲーム依存もインターネット依存も、いうまでもなく「依存症」の一種です。依存症とさえばまず連想されるのはアルコール依存症、それから薬物依存症でしょうか。いずれもおとなの問題ですし薬物依存症は犯罪に関わることも多く、子どものゲーム依存やインターネット依存とは異質なもののように思われますが、そう安心してはいられません。

依存症にはさまざまな種類があり、数え上げればきりがありません。けれども、何に依存するかは違っていても、依存症に^①オチイッタ人々の言動やふるまい方は互いに非常によく似ているという特徴があります。どうやら依存症の患者さんの脳の中では、依存の対象にかかわらず同じようなことが起きているようなのです。

脳の中には報酬系と呼ばれる回路があり、人間の動機づけや「やる気」の形成に関わっていることがわかってきました。何かを経験して「面白い、楽しい」と感じると報酬系が活性化され、その経験をくり返すよう人を促します。人間の成長や活気の原動力である「意欲・やる気・動機づけ」といった心の働きは、報酬系と関わっているに違いありません。

その一方で、報酬系は依存症のカラクリにも関わっている可能性があります。報酬系がさまざまな刺激に対してバランスよく反応するなら良いのですが、ある特定の刺激に対してだけ極端に強く反応するとしたらどうなるでしょうか。他のことはすべてそっちのけ、寝ても覚めても特定の刺激だけを追い求めることになりかねないでしょう。動物実験では報酬系を刺激することによって、実際にそのような現象を作り出すことができます。そしてこれこそが「依存症の脳の中で現実に行き起きていることと考えられます」。

アルコール、ゲーム、ケータイ、ギャンブル、対象こそ違え、脳の中では共通の変化が起きていること、依存症の怖さがそこにあります。他愛なく見える子どものゲームのやり過ぎが、実は「依存症」という途方もない深みにつながっているかもしれないのです。

たとえばアルコール依存症。患者数は全国で80万人にのぼると推定され、予備群ともいえる多量飲酒者は800万人を超えとも言われます。その背景には、日本の社会が世界的に見ても飲酒に甘いという事実があります。お祝い事や^②コンシンの席にお酒は欠かすことができません。「A」と呼ばれて推奨されますが、その危険については十分に周知されていません。

過量飲酒が身体や精神に害を及ぼすのは常識として、アルコール依存症がとりわけ人間関係

への強い破壊作用をもつことはご存じでしょうか。「お酒が原因で大切な人との人間関係にひびが入ったことがあるかどうか」は、アルコール依存症のチェックリストの^①「ヒットウ」に置かれるほどの重要なポイントです。これはアルコールに限らず、多くの依存症に共通する特徴と言えます。

Ⅱ 特定の対象に過剰に入れ込むことは、それ自体が非生産的であるばかりでなく、現実を広く見渡して柔軟に対処することを妨げ、とりわけ人間関係において他人の立場を思いやりながら自分の責任を果たしていく姿勢を^②「ソコナッテ」しまうのです。

もう一つ、一般に飲酒を開始した年齢が低いほど、アルコール依存症がすみやかに形成されることを知っておきたいと思います。若くて柔軟な脳は、誤ったパターンを学習するのも速いのです。

ずっと昔、お酒が一部の人にしか飲めない貴重品であった時代には、アルコール依存症も限られた人々の^③「贅沢病」でした。お酒が誰でも手に入れられる安価な^④「嗜好品」になった時、多くの人々の不幸が始まったのです。お酒ばかりでなく、報酬系を刺激する安くて便利な商品やイベントが世の中に満ち、毎日新たに作り出されていること、それが現代という時代の難しさでしょう。

（石丸昌彦『神さまが見守る子どもの成長——誕生・心・病・いのち』より）

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部①「オチイッタ」、②「コンシン」、③「ヒットウ」、④「ソコナッテ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、①、②は送り仮名を含めて書きなさい。

問二 傍線部Ⅰ「依存症の脳の中で現実に起きていること」とは何か、「動機づけ」、「報酬系」、「特定」の語句を用いて述べなさい。

問三 空欄Aに入る慣用句は何か。左の①～⑥から最も適当なものを選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ① 溜飲を下げる | ② 五穀豊穡 | ③ 医食同源 |
| ④ 万病の元 | ⑤ 百薬の長 | ⑥ 固めの杯 |

問四 傍線部Ⅱ「特定の対象に過剰に入れ込むこと」について、筆者はどのように考えているのか、簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部⑤「贅沢病」、⑥「嗜好品」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

何故人の顔を見分けられるのか

このような状況を少し^①想像してみて欲しい。あなたはある特定の人物のことをよく知っていて、顔を見ればすぐにその人だとわかる。それは知人でもいいし、有名人でもいい。とにかく、あなたはその人の顔を知っている。そんなあなたの目の前に突然、おびただしい数の顔写真が並べられ、その中から知っている人の写真を探せと言われたとする。

顔写真は何百人分とあり、似たようなタイプの顔はいくらでも見つかるのだが、それでもあなたはそこまで苦勞せずに、^Iその人の顔写真を見つけることができるだろう。あなたが^②アイチャクを持っていて相手の場合はなおさら簡単に違いない。「ああ、この人です」などと言いながら、あなたは一枚の写真を手取ることになる。

しかし、そもそもあなたはどうかやって、その人の顔を見分けることができたのだろうか。その人の目の大きさや、鼻の形、^③クチビルの色、そしてそれらの配置などについて、正確な知識を持っていたのだろうか。仮にそのような知識を持っていたとして、あなたはそれを言葉で説明できるだろうか。

これらの質問を前にして、あなたは自分がその人の顔を特定できた理由を説明することがかなり難しいということに気づくだろう。写真を見れば^④一目瞭然だったことも、その内容を逐一言語化し^⑤ゲンミツに規定しようとする、たちまち謎めいてくる。その人の目鼻立ちや^⑥輪郭などについて、あなたは「何か」を知っていたからこそ顔を特定できたはずだ。それにもかかわらず、その「何か」は簡単には言葉に置き換えられないのだ。

確かに言葉では上手く説明できない、それは認める。それでも、顔写真を見つけ出すことができたのだから、自分はその人の顔についてよくわかっているはずだ。あなたはひよつとするとそう思っているかも知れない。しかし、そんな時はお正月遊びで有名な福笑いを思い浮かべてもらいたい。もしあなたが知っている人の顔を様々なパーツに分けて、目や鼻だけ、または輪郭だけを、他の人たちのパーツと並べられたとしたら、果たしてあなたはその人の顔をすぐに見つけた時のように、その人の顔のパーツのことも見つけることができるだろうか。

おそらくだが、たとえサンプル数を先ほどより減らしたとしても、^⑦極端にナンインドは上がってしまうことだろう。そこであなたは気づくことになる。あなたはその人の顔のことをよく知っているつもりだし、実際よく知っている。それにもかかわらず、あなたはその人の顔の細かい部分について、別に正確な知識を持ち合わせているわけではなかったのだ。逆に言えば、あなたは人の顔を構成する各々の要素について明確に認識しないまま、言語化できない形

で総体としての顔を捉えることができるのだ。

マイケル・ポランニーの「(1)」

科学哲学者のマイケル・ポランニーは、このような知のあり方を「暗黙知」と名付け、その構造について論じている。まず、我々は顔を捉える際に顔の諸部分の特徴を知覚するが、その後、我々の注意は諸部分から総体としての顔へと移っていく。すると諸部分について我々は明確に述べることができなくなってしまう。ポランニーはこれを暗黙知の「機能的側面」と呼んでいる。ただ、機能的には諸部分についての明確な認識を失いつつも、我々は総体としての顔の持つ様相、つまり人相^(h)を介して諸部分をちゃんと知覚している。こちらは暗黙知の「現象的側面」と呼ばれている。

ちなみに人相とは、顔の諸部分が組み合わされることによって表される一種の「意味」だと言えるわけだが、我々が諸部分から受け取る情報は人相へと翻訳される。そして諸部分そのものは無「意味」化して⁽ⁱ⁾後景へと退いていく。これが暗黙知の「意味論的側面」である。

人相の特定という例だけではこの「意味論的側面」は非常にわかりにくいので、ポランニーは暗闇の中を歩くために使う探り棒や、目の見えない人が利用している杖の例を新たに持ち出している。探り棒や杖を初めて使う人は最初、それを握る手の感覚に気を取られるが、慣れてくるに従って棒や杖の先端がどこかに触れている感覚に集中するようになる。すると、手が受け取っていた感覚の「意味」は、「棒や杖を持っている」から「道を探っている」へと、いわば遠ざかっていく。しかし、「意味」が我々から遠ざかっている時こそ暗黙知は活性化し、我々は棒や杖をまるで体の一部^(j)かのように自由自在に^(k)アヤツルことができるのだ。

このようにポランニーは暗黙知の持つ三つの側面を説明した後、これから推論される最後の四つ目の側面、彼が暗黙知の「存在論的側面」と呼ぶものを^(l)シテキ^(m)している。それは言うなれば、「⁽ⁿ⁾暗黙知は結局何を認識するものであるか」という問いに対する答えなのだが、人相を特定するにせよ、探り棒や杖を巧みに使って見えない道を探り当てるにせよ、暗黙知とは実は「包括的存在」を理解することなのだ、ポランニーは言うのだ。

(中島啓勝『ておくれの現代社会論』より)

※出題のため、一部形式を改めている。

問一 傍線部⑥「アイチャク」、⑦「クチビル」、⑧「ゲンミツ」、⑨「ナンインド」、⑩「アヤツル」、⑪「シテキ」をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、⑫については送り仮名を含めて書きなさい。

問二 傍線部⑬「一目瞭然」、⑭「輪郭」、⑮「人相」、⑯「後景」の読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

問三 傍線部⑰「想像」、⑱「一部」の対義語をそれぞれ文中から探し、漢字で書きなさい。

問四 この文章に見出しを付ける場合、空欄(1)に入る最も適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 認識能力
- イ 四つの構造
- ウ 暗黙知
- エ 情報と人相
- オ 論理的推論

問五 傍線部Ⅰ「その人の顔写真を見つけることができるだろう」とあるが、なぜ見つけることができるのか。筆者の考えを六十字以内でまとめなさい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

問六 傍線部Ⅱ「暗黙知は結局何を認識するものであるか」という問いに対するポランニーの答えを、文中からそれぞれ五字と六字で抜き出ささい（句読点、記号なども文字数に含むものとする）。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
ハ	イ
ニ	ロ

問二

問三

問四

問五
ホ
ヘ

受験番号				

2025年度 入学試験問題

<解答>

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
①	②
回答	生業
③	④
創出	勘案
⑤	
偏向	

問二
⑥
校正
⑦
公正

問三
⑧
かもした

問四			
①	②	③	④
浸透	研究	部分	融合

問五
取材相手が話した要点はまとまっていますが、それと記事化すべきことが必ずしも一致するとは限らないため。

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
①	目撃
②	週刊誌
③	膝
④	間髪
⑤	抑揚
⑥	我慢
⑦	緩急

問二
①
イ
②
エ
③
ア

問三
④
鈍感

問四
子どもにとって、話の中身以上に、母親の声が自分に向けられているという状況が重要で、子どもは独占的に、母親の意識の宛先になっているという状況に浸っていたいからだ、と、筆者は考えている。

問五
不特定の人に向けられた、だれがきいても耳あたりの良い声。

問六
社会のA標準Vという枠組みの中で語りだされる声ではなく、背後に社会が透けて見えない、だれかの存在そのものであるような声、もっぱらわたしのみを宛先としている声。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
①	②
触発	装置
	③
	基調
	④
	逸脱
	⑤
	模索

問二
⑥
れんが
⑦
くし
⑧
せつちゆう
⑨
たいとう

問三
⑩
衰退
⑪
休止
⑫
陰気

問四
エ

問五	
2	1
風景	構造
の美	物の美

問六		
感じられる。	計算を駆使し、その作品に調和が	エンジニアは自然の理法に適った

著作権の都合で
掲載しません。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
ハ	イ
獣	講演
ニ	ロ
牧畜	常習

問二
人々の生活が「あったらいいな」という欲望とそれをかなえる技術開発、そしてそれを普及させることでもうかるという動機付けによって成り立つこと。

問三
Ⓐ
ウ
Ⓑ
ウ

問四
「私たち」の本来の姿

問五
ウ

問六	
私たちの祖先	私たち
マ	専門家
ル	
チ	
人間	

問七
私たち

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
㉔	㉑
一掃	検索
㉕	㉒
従属	全盛
	㉓
	軸足
	㉖
	苦闘

問二
（1）
イ
（2）
エ
（3）
ア
（4）
ウ

問三
①
複雑
②
他力

問四
ア
心理
イ
審理

問五
書くということは自己との対話にほかならず、一方、ネットでメッセージを発信するのは、何よりも誰かとつながることを目的としているから。

問六
書
き
言
葉

問七
現在のスマホ中心の情報社会は、個人の自立的な思考よりも、集団への参加のつながりを第一義的に考えるように人々の内面を変化させ、また集団のなかで個人が自立的に考え、自己形成を行うことをはばんでいる可能性があること。

解答用紙（二枚のうち一）

問一	
ハ	イ
筆頭	陥った
ニ	ロ
損なつて	懇親

問二
脳の中で、人のやる気や動機づけに関わる報酬系と呼ばれる回路が、ある体験や特定の刺激によって活性化され、その体験（刺激）ばかりを極端にくり返すように促している。

問三
⑤

問四
特定の対象に過剰に入れ込むことは非生産的で、広い視野をもった柔軟な対応の妨げとなるだけでなく、思いやりのない無責任な態度を引き起こすことから、人間関係を破綻させる要因ともなると筆者は考えている。

問五
㊦
ぜいたくびよう
㊧
しこうひん

解答用紙（二枚のうち二）

二

問一	
①	②
操る	愛着
③	④
指摘	唇
	⑤
	厳密
	⑥
	難易度

問二	
⑦	⑧
にんそう	いちもくりようぜん
⑨	⑩
こうけい	りんかく

問三
⑪
実際
⑫
総体

問四
ウ

問五			
捉え	化で	いて	人の
る	き	明	顔を
こ	な	確	を
と	い	に	構
が	形	認	成
で	で	識	す
き	総	し	る
る	体	な	各
か	と	い	々
ら	し	ま	の
	て	ま	要
	の	、	素
	顔	言	に
	を	語	つ

問六	
存	包
在	括
論	的
的	存
側	在
面	